

平成28年度 第8回豊能町教育委員会会議（11月定例会）会議録

日 時： 平成28年11月28日（月）午前9時30分～

場 所： 豊能消防署 東出張所 2階会議室

出席者： 教育長 新谷 芳宏
教育委員 太田 佳子（教育長職務代理）
教育委員 岸本 恵子
教育委員 川村 新
教育委員 宮崎 純光
事務局： 教育次長 板倉 忠
教育総務課長 塩山 博之
教育支援課長 小田 恵美子
生涯学習課長 小嶋 均
教育支援課子ども支援室長 川西 弥生
教育総務課課長補佐 入江 太志
教育総務課主査 奥 文彦

傍聴者：1名

会議次第

1. 議長（教育長）あいさつ
2. 各課、室の報告について

開会 午前9時30分

1. 議長（教育長）あいさつ

議 長：本日の出席者は5名である。過半数に達しているので、ただいまから11月度の定例会を開会する。会議録署名人を太田教育長職務代理に願います。

2. 議 事

議 長：本日は、前回会議以降の各課・室の報告を議題とする。
順次、事務局より報告を求める。

事務局：○大阪府市町村教育委員会連絡協議会研修会について

事務局：研修会は11月8日に大阪市内で行われ、委員1名、事務局2名が参加した。

委員：研修の報告であるが、震災から学ぶ「地域防災を支える人づくり」と題して、岩手県山田町教育委員会の教育次長を講師として講演が行われた。

同氏は、東日本大震災を体験した際、自身が幼少の頃から伝え聞いた災害時の心構えが役立ったこと、同様に自分の子どもたちにも伝えていたため、それぞれが違う場所で被災したが、難を逃れたことを述べられた。

被災の状況や、避難所生活についても触れられ、避難所では、避難している中高生自身がボランティアに助けてもらっただけでなく、ボランティアの一員として活動するうち、自信をつけていったこと、避難所に机が無くても、学びたい気持ちがあれば勉強はできるといったことを述べられた。

その後、学校を再建するにあたり、震災の時に経験した、「地域」と「学校」と「子ども」の3者がともに学んでいくことの大切さを生かすために「ふるさと科」という学科を創設された。

これらをとおして、子どもが育つことで家庭、地域も育つということ、日々の備えと訓練の大切さ、人と人のつながりが最大の防災力である、ということ学んだが、一方で課題として、主体的な学びへの転換を挙げ、道具や場所の準備が整ったうえでの体験学習や一方的に講義を聞くだけではなく、学びとしての意義づけを一層明らかにしていかないと、新たに創設した「ふるさと科」も続いていかないのではないかとのことであった。

「ふるさと科」において、「伝統」や「自然の恵み」等のテーマでリーフレットを作成し、それぞれの分野ごとに地域の方々も作成に関わり、子どもたちの教科、教材づくりが地域おこしになっているとのことであった。

遠い地域の取り組みであるが、今後、豊能町も目指していかないといけないところや参考にすべきところも多数あった。

報告は、以上である。

議長：引き続き事務局各課・室の報告を求める。

事務局：○文部科学省人権教育指定校事業公開研究大会について（光風台小学校）

○大阪府保育子育て人権研究集会について

○虐待防止キャンペーン講習会について

○町PTA交流会について

○来年度入園所申込みの受付状況について

○「育児の日」報告について

○ユーベルホール自主事業について

○文化展について

○青少年指導委員会行事「森とあそぼう」について

委員：来年度入園所者数が減少しているが、私立に通う方はいるのか。

事務局：把握しているのは、15名程度であるが、こちらも減少傾向である。施設型給付以外の幼稚園は把握できていない。

委員：近隣の施設型給付以外の幼稚園数は。

事務局：全ては把握していない。

委員：施設型給付とは。

事務局：平成26年度まで、多くの私立幼稚園は私学助成を受けていたが、平成27年度より子ども・子育て関連法により、施設型給付費として市町村から助成金等を受けるか、従来どおり私学助成を受けるか選択することとなった。

委員：「育児の日」に関して、父親の参加も多く、意欲的にかかわっている印象だが、父親同士のつながりも重要だと考える。「育児の日」の場だけでなく若い父親世代がつながれる環境づくりにつなげていければと思う。

委員：東ときわ台留守家庭児童育成室の入室希望者が定員枠に近いとのことだが、今後、定員を超える可能性は。

事務局：利用者は、毎年夏休み以降に減少していく傾向があり、今年度も当初は定員枠に近かったが、現在は若干減少している。今後は、受付時に優先順位を設けて、真に必要な低学年から優先して入室する等、内規を整備する。

委員：青少年指導委員会行事「森とあそぼう」の「森」はどこで実施するのか。

事務局：会場が野間口青少年総合スポーツセンターなので、付近の牧地区の山林を所有者から借り受けた。借りた区画内で間伐等の体験を行った。

委員：ユーベルホールの人形劇を観たが、小さい子の親子連れと年配の方が多く、人形劇を観てほしい小中学生の年代が少なかった。これらの年代の子どもに参加を促すにはどのようにすればよいかと考える。

事務局：学校にちらしを配布しているが、それをどこまで来館につなげるか工夫が必要で、課題と認識している。

委員：ちらしだけでは「動き」がないので、インターネットの動画を駆使して予告編のようにできないか。現実的には、町ホームページに動画付きの告知が望ましいと思う。出演者側に了解を得て、過去に行った同様の演目の動画を流すことができればよいと思

う。

議 長：報告は以上である。続いて、その他の質疑について。

委 員：私自身、学校協議会の委員をしていて、その場において校舎の老朽化が話題になることがあるが、学校側から対策の要望があればどのように対応しているのか。

事務局：学校施設の管理については、計画を立てて施設改修しているところである。

委 員：計画的であるならば、どの時期にどの箇所を補修するかは学校側に回答しているのか。

議 長：予算要求は計画に則って行っているが、他の町立施設の補修もあり、緊急度や重要度を勘案して優先順位をつけ、直ちに予算採択されないものもある。町の財政再建プログラムの中で捻出できる予算も限られている面はある。

事務局：例えば、今後5箇年の補修計画の予算が確約されているわけではなく、予算編成は毎年度行われるので、その都度町部局と協議することとなるため、学校の要望どおりに進まない場合もある。今後、小中一貫教育に関連して学校の再配置があれば、関連する国の補助金もあるので、その際に重点的にするという案もある。

議 長：学校施設だけでなく、生涯学習関連施設も補修計画はあるが、予算編成は単年度ごとに行われるため、学校の意に沿わないところはあるかと思う。予算が不採択になったときは、学校側にも細かな説明をするようにしたい。

議 長：その他については以上である。これで本日の日程は終了した。

次回以降の教育委員会会議の日程は12月度、12月22日（木）午前9時30分開催予定とする。

議 長：これで本日の教育委員会会議を閉会する。

閉会 午前10時58分